

訂正

(配布日：令和8年1月16日)

<報道発表資料>

(教育同時)

令和7年度伝統行事・芸能功労者被表彰候補者名簿について、一部訂正しました。

誤：おかべ いくたか 正：おかべ ゆきたか

誤：市原ハモハ・鉄扇 正：市原ハモハ踊・鉄扇保存会

令和8年1月14日

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

令和7年度伝統行事・芸能功労者表彰

京都市では、文化観光資源の保全に係る普及啓発活動の一環として、公益財団法人京都市文化観光資源保護財団とともに、伝統行事・芸能功労者表彰制度を設け、功績のある方を表彰しています。

この度、令和7年度の被表彰者を決定し、表彰式を行います。

1 日時 令和8年2月4日（水）午前11時から約30分間（予定）

注) 表彰式は同財団の令和7年度通常理事会（午前10時30分～）終了後に行うため、開始時刻が若干変更になることがあります。

2 場所 ウェスティン都ホテル京都 4階 葵殿

（〒605-0052 京都市東山区粟田口華頂町 電話075-771-7111）

3 被表彰者 （別紙）12名

※写真データが必要な場合は文化財保護課までご連絡ください。

4 次第

京都市長挨拶（代読）

表彰状授与

公益財団法人京都市文化観光資源保護財団理事長挨拶

記念撮影

5 主催

京都市

公益財団法人京都市文化観光資源保護財団

6 問合わせ先 公益財団法人京都市文化観光資源保護財団

電話075-752-0235

(参考)

伝統行事・芸能功労者表彰制度

多年（原則として 10 年以上、年齢 45 歳以上）にわたり伝統行事や伝統芸能の保存執行に当たるとともにそれを広く一般に公開し、後継者の指導育成・道具類等の製作・修理等の技術修得などに功績のある方を表彰するもの



表彰式の昨年の様子

以上

令和 7 年度

伝統行事・芸能功労者被表彰候補者名簿

年齢は令和 7 年 11 月 19 日現在（敬称略）

名 称	団体名（保存会）	氏 名	年齢	住 所	功 績
か もくらべうま 賀茂競馬	か もくらべうまほぞんかい 賀茂競馬保存会	ほりかわ みえこ 堀川 三恵子	70	京都市 上京区	<p>女性として賀茂競馬の歴史の中で初めて公の役割として参画し、伝統文化継承の先導役を務めておられます。</p> <p>普及にも熱心に取り組まれており、保存会の副会長と共に近隣の小学校へ出向かれ事前学習に長年携わっておられます。</p> <p>京都市教育委員会や行政との調整役も務められておられます。</p> <p>一般財団法人賀茂県主同族会評議員（平成30年～現在） 同会婦人部会長（平成18年～現在）</p>
ふじのもりじんじやかけうま 藤森神社駆馬	ふじのもりじんじやかけうまほぞんかい 藤森神社駆馬保存会	はやかわ こういち 早川 宏一	60	京都市 山科区	<p>平成9年に世話方として藤森神社駆馬保存会に入会されました。</p> <p>平成15年中間警備責任者、平成25年より馬場設備責任者、令和元年から副実行委員長・副会長を歴任され、令和6年より実行委員長として行事の賛助金の要請、行事の安全催行、保存会の運営に尽力されておられます。</p>
ひろがわらまつあげ 広河原松上げ	ひろがわらまつあげほぞんかい 広河原松上げ保存会	おりたに いくお 折谷 郁夫	72	京都市 西京区	<p>昭和45年に18才で広河原松上げに初めて参加され、以来50年以上に亘り松上げ行事に参加し続けていらっしゃいます。</p> <p>評議員を務められた時期もあり、運営面でも貢献されるとともに、後進の指導にもあたられています。とりわけ準備の際には傘づくりの硫黄の扱いに精通され、欠かせない存在です。</p>

名 称	団体名（保存会）	氏 名	年齢	住 所	功 績
きたしらかわたかもり 北白川高盛 ごく 御供	きたしらかわでんとうぶんかほぞんかい 北白川伝統文化保存会	しのとう 篠藤 貴史	58	京都市 左京区	<p>平成 19 年に北白川伝統文化保存会に入会し、以来 18 年間高盛御供の伝統行事に携わってこられました。</p> <p>準備に一昼夜かかる行事にもかかわらずこの間一度も欠席することなく材料の購入から料理の下ごしらえに至るまで積極的に参加されておられます。特にすべての供物を作成する技術を習得されているところが評価されています。</p> <p>今では会の中心メンバーの一人として後継者の指導、育成に尽力されています。</p>
しゅうきくくけまり> 蹴 鞠	しゅうきくほぞんかい 蹴 鞠 保存会	なかお 中尾 まさし まさし 正史	77	京都市 下京区	<p>平成 9 年の入会以来熱心に稽古に参加して蹴鞠の技術を習得されました。毎年 10 回以上に亘る蹴鞠の公開に積極的に参加し、蹴鞠の伝統技術の継承・披露はもとより、平成 26 年より理事に就任され、貴重な装束・備品の管理に務めておられます。また、役員の方々が高齢化していく中ではありますが、長年後継者育成に尽力されておられます。</p>
きょうと ろくさい 京都の六斎 ねんぶつ 念佛	うめづろくさいほぞんかい 梅津六斎保存会	おかべ ゆきたか 岡部 行高 おかべ ゆきたか 岡部 行高	50	大阪府 茨木市	<p>平成 3 年に 16 才で保存会に入会され、太鼓方、踊り方と幅広く習得され現在も幅広く貢献されておられます。</p> <p>34 年間に亘り梅津六斎保存会の行事運営と後継者育成に積極的に貢献されておられます。</p> <p>保存会の中堅の中心的なメンバーでリーダーシップを発揮されておられます。</p>

名 称	団体名（保存会）	氏 名	年齢	住 所	功 績
やすらい花 ばな	いまみや かい 今宮やすらい会	きたがわ たつひこ 北川 龍彦	47	京都市 北区	<p>小学校低学年の頃からやすい花に参加し、子役、鬼役を経て現在はお囃子・笛役を担当しておられます。近年は音頭取り、袴役等の役員補佐役も担っておられます。</p> <p>小学生時代以来 40 年近くの経験を活かし後継者育成のため笛、踊りの指導をされるとともにやすらい会の保存・運営にも携わっておられます。</p>
くたみやの ちょうまつあ 久多宮の 町 松上 げ	くたみやのちょう 久多宮の町 まつあげほぞんかい 松上げ保存会	つねもと はるき 常本 晴樹	76	京都府 城陽市	<p>久多のご出身で中学卒業後町中に移り住むも休日は帰省し、父親やベテランの年長者から指導を仰がれ研鑽されてされました。令和元年から保存会会長となり、伝統行事である久多宮の町松上げの公開、保護思想の普及、後継者の育成に尽力され、保存会の充実した活動を継続されておられます。</p>
いちはらは も は 市原ハモハ おどり てっせん 踊・鉄扇	いちはらは も は おどり てっせん 市原ハモハ 踊・鉄扇 ほぞんかい 保存会	ますだ かづよし 増田 和善	76	京都市 左京区	<p>現在も市原に居住され、地元小学校の 3 年生、6 年生にハモハ踊り・鉄扇踊りの指導に当たっておられます。</p> <p>8 月 16 日に行われるハモハ踊・鉄扇踊りの代表として活躍されておられます。</p>

名 称	団体名（保存会）	氏 名	年齢	住 所	功 績
いちじょうじてつせん 一乗寺鉄扇	いちじょうじきょうどげいのうほぞんかい 一乗寺郷土芸能保存会	なかがわ せつこ 中川 節子	82	京都市 左京区	<p>昭和 62 年の一乗寺郷土芸能保存会発足以来 40 年近く女性の踊り手の中心メンバーとして活躍され、地域の活性化にも貢献されておられます。また、若い人たちに踊りの楽しさを教え、その指導と会員の拡大に尽力されておられます。近年は小学生達にも鉄扇踊りを教え、子どもたちへの伝承にも取り組まれておられます。</p> <p>地元鉄扇踊り特有の浴衣や三幅の前垂れ、帯といった衣装の保存や作成にも力を入れてこられました。</p> <p>ご自身は地元一乗寺のご出身で小学 5 年から現在に至るまで踊り続けておられます。</p>
いちじょうじはちだい 一乗寺八大 じんじや けんぼこさ 神社の剣鉾差し	いちじょうじはちだいじんじや 一乗寺八大神社 けんぼこほぞんかい 剣鉾保存会	わたなべ よしひこ 渡邊 義彦	71	京都市 左京区	<p>平成 8 年より父親の指導のもと修練され、剣鉾差しとして貴重な担い手として毎年奉仕されておられます。剣鉾を差すには高い技術が必要なため年間を通じた修練会で指導されておられます。</p> <p>また栗田神社や大豊神社など長い間剣鉾差しが途絶えていた地域の方々が修練会に参加した時も積極的に指導に当たり、京都各地の剣鉾差しの復興に尽力されてこられました。</p> <p>京都市の催しで剣鉾差しの依頼があった際も積極的に参加され、多くの方々に伝統文化を伝えることにも尽力されてこられました。</p>

名 称	団体名（保存会）	氏 名	年齢	住 所	功 績
くた 久多の やま かみ おゆみ 山の神・お弓	くた 久多の やま かみ おゆみほぞんかい 山の神・お弓保存会	こたき 小瀧 ただお 忠雄	97	京都市 左京区	平成 11 年から 6 年間保存会の会長として弓始め儀式の執行・公開にし、儀式の維持、発展に貢献されました。退任後も保存会の一員として弓・矢・的・海老わらじといった儀式の主な道具の制作技術を習得され、節目々々にはこうした道具の制作更新にも携わってこられました。 併せて後進の技術指導や育成に尽力されてこられました。